修士・博士のための海外渡航助成金報告書

広域科学専攻　生命環境科学系　四本研究室　修士２年

杉山翔吾

11/12-16 にサンディエゴ（アメリカ，カリフォルニア）にて開催された Society for Neuroscience 2023 に参加した。本学会はかなり広い意味での神経科学にかかわる研究者が一堂に会する大規模な国際学会であり，毎年開催されている。電気生理学や分子生物学，動物行動学に認知神経科学など，幅広い領域の研究者が集い，会場のみならず周辺の繁華街でも数多の研究者を見ることとなった。海沿いの晴れ晴れとした美しい街で行われる大規模の学会は，毎日が人の熱気で満ち溢れ，一種のお祭りのようですらあった。

会場では各種企業が神経科学関連のブースを展開し，また種々の研究者によるトークセッションも毎日開催されていたが，なにより印象的なのはポスター発表である。もはや端が見えないほど巨大な学会会場に，数えてこそいないもののおそらく 1000 枚はゆうに超えるポスターがずらりと並んでおり，それも午前と午後で切り替わる。タイトルを眺めながら会場を歩いているだけであっという間に時間が過ぎてしまい，神経科学研究の世界がいかに広く深いものであるか，身を以て感じた。筆者の研究対象は触覚の知覚であり，視覚や聴覚に比べて圧倒的に少数派の分野である。それでも触覚にまつわるポスターが一日に必ず複数は存在し，中には自分とまったく同じ先行研究を引いて実験を組み立てている方もいた。少数ながらも同種の問題意識を持っている人と出会えたのには感銘を受けた。

図 1 会場の San Diego Convention Center

筆者にとって本学会は初の国際学会であった。コロナウイルス禍でいくつもの学会がオンラインに変更されていくなか，学生最後の学会に現地参加できたのは非常に貴重な体験となった。拙いながらも英語をもちいて，初めて出会う他領域の方々と意見を交換しあう状況はたいへん有意義であり，よく指導教員が仰っている「ポスター発表はコミュニケーションだ」という言葉の意味を痛感した。学会で得た経験はアカデミア関連のみならず，今後あらゆる場面で活かせるものであったといえる。